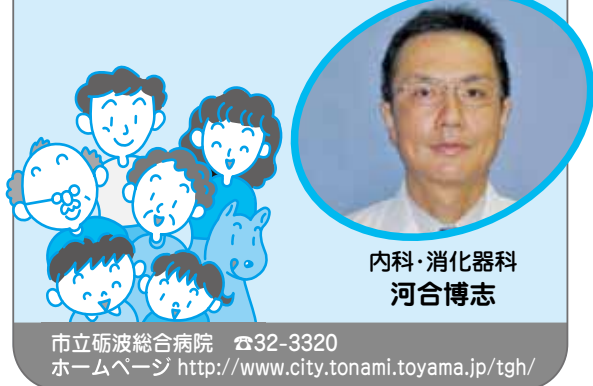


砺波総合病院から



内科・消化器科
河合博志

市立砺波総合病院 ☎32-3320
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

みんなには

カンゾー先生です

この4月に砺波総合病院に赴任した河合です。宜しくお願いします。

専門は消化器内科、特に肝疾患を専門としています。中でもB型肝炎・C型肝炎といったウイルス性慢性肝疾患、自己免疫性肝炎・原発性胆汁性肝硬変症といった自己免疫性の慢性肝疾患を得意とするカンゾーの医者です。いわゆる「カンゾー先生」です。この名前の映画を覚えている方もいるかも知れません。

病院では副院長、内科主任部長、消化器科部長を兼務しています。副院長としてのあつかいは、病院広報誌「おお

しす」に書きましたので、そちらも併せて読んでいただけたらと思います。

私は今年で医師になって25年目、肝臓を専門としてからも23年になります。私が定年までこの病院で働くとしたら、あと17年砺波エリアのみなさんとお付き合いたいということになります。肝臓病は慢性疾患なので、患者さんと医者は長い付き合いになります。長い付き合いをするためには信頼関係を築くことが重要になります。

ここでは、私の肝臓を専門とする消化器内科の医者としての考え方、あるいはスタンスを書かせてもらいます。私の考え方を知っていただくことで、少しは皆さんのお役にたつかもしれません。



私の考え方・スタンス

私自身この25年間、多くの患者さんを診てきました。中でも、「検診で慢性肝炎が見つかる→肝硬変にすすむ→肝臓がんを併発」という経過を多くの患者さんと共に向き合ってきました。

カンゾーの医者は威圧的に、難しいことを押し付ける印象が強いとい

「放っておくと肝臓がんになるぞ」

「インターフェロンせんとだめやぞ」

「肝生検せんと病気わからんぞ」

「ウイルスの量が多い・少ない」

「ウイルスに変異があるから…」

こんなことをすけすけという人のイメージがあるかもしれませんが、私は違いますよ。もちろん、頭の中では難しい問題や言葉を考えますし、しっかりと最新の治療も行います。

「カンゾー先生」にとって、診なければならぬのは肝臓炎という疾患ではなく、ウイルスの量や変異でもなく、人である患者さんであると考えています。

疾患としてただ処理するのではなく、肝疾患で悩む患者さんとして、体と心などさまざまな観点から一体的にケアし支えていくことが「カンゾー先生」の使命と私は考えています。（映画では、何でも肝臓炎と診断して村人に馬鹿にされる役ですが…）

たしかに、治らない病状であったり、インターフェロン治療を受けなかったりと患者さんへの治療意欲を損ない、あるべき姿でない医者も見かけることがあります。しかし、私は医師としてその考え方・行為は決して認められません。肝臓病においては抗ウイルス療法も大事ですが、定期的な細胞診断や肝臓病であるということへの不安を和

らげていくことなど、患者さんへの心のケアがなにより大事と考えています。肝臓に少し不安があるときは、気軽に当院を受診してください。多くの肝疾患は長期戦です。協力して病気と付き合ってください。

病院敷地内禁煙のお知らせ

当院では、病院敷地内全域が禁煙となっています。

患者さん、ご家族、お見舞いの方々の健康の増進を図るとともに、受動喫煙を防止するため、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。



患者さんへのお願い

- 初めて受診される方で、他の医療機関のお薬を服用されている方は、お薬の説明書をお持ちいただけますようご協力をお願いします。当日の検査や予約を行う際に参考となる大切な情報が書かれています。
- 患者間違いなどによる医療事故の発生を防ぐため、大変恐縮ですが、患者さんには、診療、検査、投薬、注射などの際、「自ら」お名前を名乗っていただくとともに、ご自身による最終確認をしていただくなど、積極的なご協力をお願いします。